



株式会社 クロサキ 1907 (明治40年) 年創業

イメージはオシャレで華やか。時代を牽引するトレンドの発信源として、常に注目される理美容業界。その業界の真つ只中で100年以上にわたって理美容器材の総合卸業を営んできた企業が宇都宮市にあります。全国でも稀有な存在の老舗企業、㈱クロサキ。30歳代の若き五代目黒崎英典さんに、同社のこれまでと今後についてうかがいました。

いつの時代も「オトコノミカタ」

「まず、これを見てください」と代表取締役の黒崎英典さんが手にしたのは、社長に就任した2年前に自ら編集した1枚のDVD。そこには、何枚もの写真で㈱クロサキが歩んできた100年を超える歴史がまとめられていました。プロローグは、明治40年に撮影されたセピア色の店舗写真。大工町に創業した金物屋「黒崎清五郎商店」の看板には、当時は珍しかった

理容椅子の絵とともに「理髪店舗装飾一式 舶来大鏡 理髪椅子」と大きく書かれており、同社が創業当初から理美容器材を商っていたことがうかがえます。理美容業に特化した「道具屋」として大きく発展したのは、二代目清五郎の時代。昭和11年に一条町に店舗を移転し、太平洋戦争の影響で一時休業を余儀なくされるも昭和20年には宮園町で営業を再開。昭和22年に有限会社黒崎商会を設立し、昭和38年に現社長・英典さんの祖父である三代目孝一氏に継が渡りました。

「祖父からは常々『クロサキは大勢のお客さまに支えられている素晴らしい会社だ』と聞かされて育ちました。だから、早く自分も社長になりたいと子どもの頃から思っていました(笑)と英典さん。昭和30年代は、欧米化とともに

日本女性のファッションが一気に華開いた時期。栃木にもアイロンパーマがもたらされるなど男性のファッション志向も高まる中、同社では理容室に向けた情報発信に努め、ヘアードザインのイベントや顧客の招待旅行、独自のビッグバザールなどを開催し、顧客とのコミュニケーションを深めてきました。その顧客との強い信頼関係は、イベントや旅行時の笑顔が溢れる写真からも見て取れます。

そして今、同社は時間をかけて先達が培ってきた歴史を基に新たな組織づくりと情報発信に取り組んでいます。英典さんが歴史から掘り起こしたのは「メンズ・クロサキ」というキーワード。「当社には明文化された社訓や経営理念がなかったので、社長就任後にこれまでの歴史を振り返り、『私たちはお客さまの繁栄



明治40年、創業時の店舗写真

のために進化し続けます」という経営理念と、企業理念『継承』を打ち立てました。歴史から見えてきたのは、当社の真髄は理容、メンズにあるということです。『メンズ・クロサキ』として、理美容室と一緒に日本の男性を格好良くしていきたい。また、理美容室の代弁者として、業界全体の思いを一般に向けて発信していきたいと考えています。

ネットやブログでの情報発信に加え、今秋には卸業者目線の理美容情報紙「オトコノミカタ」を発行。いよいよ新プロジェクトが始動します。しかし「オトコノミカタプロジェクトは中長期計画」と、英典さんに焦りはありません。

「会社を次代に継ぎ、家族に囲まれて祖父が亡くなつたとき、とても幸せそうに

見えたんです。『死ぬときハッピー』であることが一番だと教えられました。今、社長業の難しさを痛感していますが、父が作ってくれた盤石の体制に感謝し、長い目で将来を見つめながら、200年企業を目指していきます」。



株式会社 クロサキ

[本社] 宇都宮市菊水町12-5
☎028-636-5828(代)

業務用理美容器材専門店 ネオフィリア

宇都宮市インターパーク3-3-7
☎028-688-3537

<http://www.bombom.co.jp>



会長の黒崎成一さん(右)と、五代目代表取締役の黒崎英典さん(左)